

2. 遠賀川の概要



福岡県を流れる一級河川の遠賀川は嘉麻市の馬見山に発し、多くの市町村をその流域に含みながら、響灘へ注ぎます。遠賀川多自然魚道は、その河口部、芦屋町にあります。

遠賀川は、福岡県嘉麻市馬見山に発し、直方平野で彦山川や犬鳴川を合わせ響灘に注ぐ、幹線流路延長61km、流域面積1,026km²の一級河川です。

遠賀川は、古来からの稲作文化や日本の近代化を支えた石炭産業や製鉄産業など、流域の人々の生活や文化と深く結び付き、治水、利水、環境面で重要な役割を担ってきました。流域の人口は約63万人、うち想定氾濫区域の人口は21万人に及びます。中間市や遠賀郡は北九州市のベッドタウンとして、飯塚市周辺は福岡市のベッドタウンとして特に宅地開発が進んでいます。

年間降水量は1500～2000mm程度で、その60%が梅雨期に集中し、近年では2003年7月に床上浸水1778戸にも及ぶ大被害をこうむりました。

遠賀川の水環境は、以前は石炭産業、近年は都市化などにより悪化していましたが、自治体による下水道の整備や数多くの住民団体の熱心な活動により徐々に改善されています。



遠賀川流域の位置

| | |
|--------|--|
| 源流 | 福岡県嘉麻市馬見山(標高978m) |
| 流域面積 | 1,026 km ² |
| 幹線流路延長 | 61km ※遠賀川本川の長さ |
| 直轄管理区間 | 133.8km ※国が直接管理する区間の長さ |
| 流域市町村 | 7市14町1村 北九州市(若松区・八幡西区) 直方市、飯塚市、田川市、 中間市、宮若市、嘉麻市、 芦屋町、水巻市、岡垣町 遠賀町、小竹町、鞍手町、 桂川町、筑前町、香春町、 添田町、糸田町、川崎町、 大任町、福智町、赤村 |
| 流域内人口 | 約63万人 |

1. 気候

ほぼ全域が日本海型気候区に属しており、年平均気温が15〜16℃、年間降水量は1500〜2000mm程度となっています。年間降水量の60%が梅雨時に集中しており、洪水被害もその時期に多く発生しています。

2. 自然環境

三方を福智山地、英彦山地、三郡山地といった国定公園や県立自然公園に指定された山々に囲まれ、四季の彩りが多彩な渓谷など豊かな自然環境に恵まれています。

遠賀川本川の上流域にはアカシデ・イヌシデ群落やミミズバイ・スダジイ群落がモザイク状に分布しますが、殆どはスギ・ヒノキ植林で覆われた人為的な植生分布となっています。中・下流域では山地はスギ・ヒノキ植林、丘陵地は果樹園、平地は宅地や耕作地といった様に更に自然は減少します。しかし、水辺にはヨシ、ツルヨシなどの湿性植物が広く分布し、鳥類や小型哺乳類、魚類などの稀少な生息場となっています。

一方、最も大きな支流である彦山川の流域では、源流域の英彦山頂部を中心にシラキ・ブナ群落やブナ・スズタケ群落などの自然植生が広く分布し、ツマグロキチヨウ、ブチサンシヨウウオなどの貴重な動物が数多く生息

しています。

3. 地形条件

「土地ひきく（低く）大河流れて水災多し」これは『筑前国統風土記』に書かれた遠賀川の特徴です。海と中流部を比べても高さにそれほど差がない土地に遠賀川という「大河」が流れ、少し雨が降るとすぐに水害になってしまう、という意味です。このような地形条件を克服しようと、多くの先人たちが治水に力を入れてきました。しかし、近年では、2003年7月に飯塚・直方地区で床上浸水1778戸に及ぶ大きな洪水被害が発生しました。また、2009年7月と2010年7月にも、2003年7月の出水と同規模の出水が発生し、それぞれ床上浸水623戸、床上浸水89戸の被害がありました。2012年の出水では、2010年の出水を上回る7箇所の水辺観測所で既往最高水位を記録し、床上浸水121戸の被害がありました。



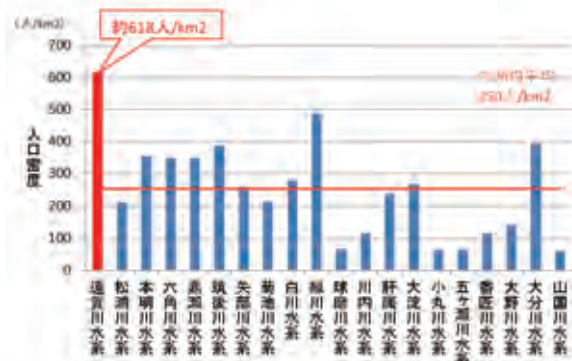
英彦山



直方市を流れる遠賀川

4. 社会経済状況（人口・産業等）

遠賀川流域内の人口は現在約63万人、想定氾濫区域内の人口は約21万人です。また、流域内の人口密度は約618人/km²と九州の一級河川（20水系）の中で第1位です（左図参照）。



九州内の一級河川の流域人口密度

流域は、早くから水田が広がり穀倉地帯として栄えてきました。また、石炭を主力エネルギーとした産業構造の時代には、流域のいたるところに炭坑があり、日本の近代化や発展の原動力として栄えました。しかし、昭和30年代に始まるエネルギー革命の影響により、筑豊から炭坑の姿は消えてしまいました。これに変わり現在は、田川地区を中心とする

石灰石を資源としたセメント工業や宮若地区の自動車生産工場などが発展してきています。

産業別就業人口では、第三次産業が最も多く、全体の約69%を占め、

次いで第二次産業の28%、第一次産業の約3%の順となっています（下表参照）。

流域の土地利用は、山地等が約80%、水田や果樹園等の農地が約14%、宅地等の市街地が約6%となっています。

5. 水環境

石炭産業が盛んな時代は石炭の選別に利用した水が遠賀川に排水されていたため、「ぜんざい川」と呼ばれるほど川は黒く濁っていました。石炭産業の衰退に伴い、透明度は次第に回復しましたが、都市化の進展や生活様式の変化により、現在では有機汚濁による水質の悪化が顕著となっています。

また、遠賀川の河川敷には投棄された様々なゴミが、出水時に遠賀川河口周辺に流れ着いており、毎年約2000万円をかけて回収処分をしています。

このような状況の中、流域の自治体と数多くの住民団体が連携して水環境の改善に向け

産業別就業人口 (人)

| | ※1 遠賀川流域内 | | ※2 福岡県 | |
|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| 第1次産業 | 7,912 | 3.0% | 81,219 | 3.6% |
| 第2次産業 | 75,372 | 28.4% | 496,942 | 22.0% |
| 第3次産業 | 182,186 | 68.6% | 1,676,476 | 74.4% |

※1 河川現況調査（基準年：2005年度末）

※2 福岡県統計年鑑（2005年国調：総務省統計局）

た取り組みを行っています。5月30日（「ゴミゼロ」）を「遠賀川ゴミゼロの日」と定め、遠賀川水系水質防止連絡協議会が主体となり、地域住民と協働して、2009年度より「春の遠賀川一斉清掃月間」（毎年5月11日～6月10日）に流域の各地で清掃活動を実施しています。また、住民団体が主体となり、源流の森林保全や自然環境教育、サケのふ化・育成・稚魚放流など水質改善へ向けた活動を積極的に展開しています。



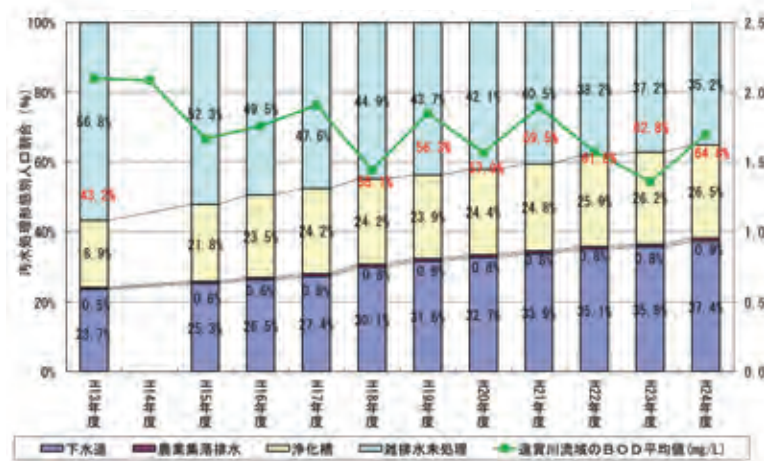
第12回芦屋・若松海岸クリーンキャンペーンの様子



2013年「遠賀川源流の森づくり」下草刈りの様子

2012年1月22日に開催された「第3回 I LOVE 遠賀川流域リーダーサミット」では、福岡県知事を交えて、遠賀川流域22市町村長が「遠賀川流域宣言」を発表しました。この宣言には、遠賀川を美しい川にして次世代に引き継ぐために、流域住民、事業者、行政が連携し、一体となって水質改善に取り組んでいくことが謳われています。

これらの水質改善への取り組みの効果もあり、近年の水質は環境基準値を概ね満足しており、河口から約20km上流の直方市でアユの遡上が確認されています。また、サケの遡上も度々確認され、嘉麻市にあるサケをご神体とした「鮭神社」で毎年12月に行われる献鮭祭では、流域内で見つかったサケが奉納されています。



※出典：「福岡県の下水道」（福岡県建築都市部下水道課）及び各市町ヒアリング結果から算出

※遠賀川流域のBOD平均値は、水系14測定箇所の間年平均値

遠賀川流域の汚水処理整備率の進捗状況とBOD平均値の推移



鮭神社



遠賀川水辺館での活動の様子



2013年に捕獲したサケ



第3回I LOVE 遠賀川流域リーダーサミット

遠賀川河口堰周辺の歴史

福岡県の北部に位置する遠賀川河口堰は、響灘を望む遠賀川の河口から約2km入ったところにあります。河口堰の東側は奇岩景勝の磯を形成し、西側は白砂青松のなだらかな海岸となっています。

この地域は平安時代中期から交易港として

遠賀川流域宣言

発展してきました。江戸時代から明治初期にかけては、遠賀郡・筑豊の陸海、河川交通の要衝を担い、行政機関・学校等もおかれたことで、地域の中心都市として発展しました。明治中期頃には、筑豊炭田の石炭を運ぶための船である川ひらたが約3000艘以上みられたそうです。その主力が遠賀郡内の川船で、さらにその半数を占めたのが芦屋・山鹿でした。

現在、遠賀川魚道公園がある芦屋町には、米軍基地の跡地につくられた航空自衛隊芦屋基地やそれに隣接する芦屋競艇場のほか、芦屋海浜公園や、永年の風化で出来た巨大な洞穴をもつ洞山、平らな岩盤が連なった千畳敷、町花に指定されているはまゆうの群生地など、自然の景観も多くみられます。夏は、遠賀川河口付近で開催される花火大会や海浜公園での海水浴、秋には航空自衛隊芦屋基地の航空祭など、1年を通して町中で様々な賑わいをみせています。